

一般調査報告書
江蘇省 連雲港市、徐州市について

7月、中国・上海は6月半ばからの梅雨が明け、夏本番となりました。名古屋の夏同様に、上海も日差しが強く、高温多湿な環境で、企業訪問などで外を歩くと短い距離でも熱中症になりそうな日々が続きました。一方で内陸部の多くの地域では大雨に見舞われ、数年に一度と言われる豪雨や洪水が続き、大きな被害が発生したことが日々、ニュースで報道されていました。北部地域では上海を含む南部地域と異なり、湿度が低く、からっとした夏となり、避暑などを求めて多くの観光客が押し寄せていることもまた、報道されています。

同月開催された中国共産党第20期中央委員会第3回全体会議（いわゆる「3中全会」）では、対外開放が中国式現代化の鮮明な特徴であるとし、対外貿易体制の改革や、外商投資・対外投資の管理体制の改革を深化させるとの発表がありました。こうした流れもあってか、中国各地方政府も活発に日本側へのアプローチを続けております。今回は、在上海日本国総領事館に同行する形で視察した、江蘇省連雲港市、徐州市について、触れてみたいと思います。

【一帯一路の終起点：連雲港市】

まず訪問したのは、連雲港市です。同市は江蘇省最北部にあり、山東省に接する都市で、人口480万人、面積7,500km²、GDPは約6兆円です。全国十大港湾の一つである貿易港「連雲港港」を有し、中国に14ある沿海の経済技術開発区の1つで、水素精製プラントも建設しています。同港はシベリア鉄道に代わる中央アジア経由の大陸横断鉄道網「新ユーラシア・ランドブリッジ」の東の終着点と位置付けられる交通の要衝です。

連雲港港は「一帯一路」の終起点としても機能しており、日本や韓国はじめ多くの国からのコンテナ航路が同港に着き、ここでコンテナが船から大陸横断鉄道に載せかえられ、オランダのロッテルダムをはじめヨーロッパ、中東など40以上の国や地域に送られていきます。

連雲港市はまた、中国最初の沿海対外開放都市の一つとして発展し、国の経済技術開発区が置かれるなど、経済活動も活発に行われているとのこと。さらに同市は自然環境、資源にも恵まれ、肥沃な土地では主に米、麦、大豆、落花生、綿、林檎、葡萄、栗などが栽培され、また淡水、海水での養殖業もさかんとのこと。

連雲港港には様々な地域から運ばれてきたと思われるコンテナが高く積みあがっており、それらが貨物列車に載せ替えられていく様子などを見学することができました。また、各種のカメラ・センサーを利用し、AIと組み合わせて行きかう貨物などを管理するコントロールセンターも見学することができました。こうした、従来であれば人手がかかるプロセスを大胆に自動化することで、輸送コストを抑え、迅速・安全に物流を改善している、とのこと。

連雲港港



同港コントロールセンター



対応いただいた連雲港市トップの馬書記によれば、連雲港市の魅力は以下の通りです。

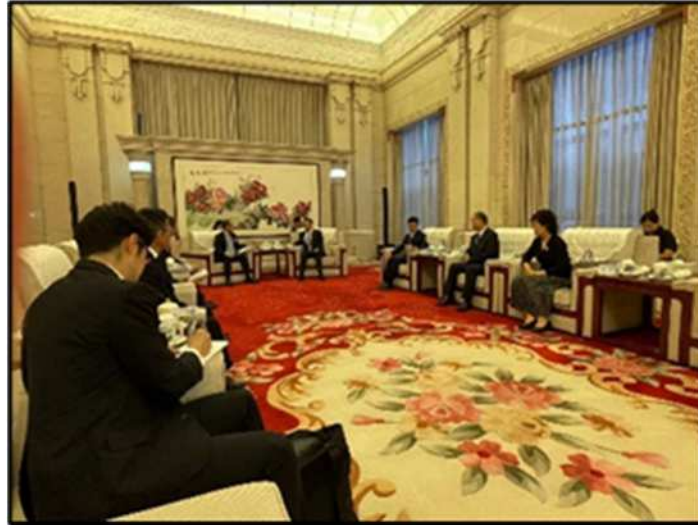
- ・ 市内には旧石器時代の遺跡などが豊富に存在し、秦の始皇帝も訪れたことがあるなど、歴史豊か。西遊記の孫悟空のふるさと。四季の変化がはっきりして、山、川、湖など自然にも恵まれている。
- ・ 貿易の玄関口。渤海、黄海、長江の結節点に立地。一带一路の玄関口として隣国カザフスタンとの連携で鉄道物流網を整備。鉄道の終起点および海路への接続点。
- ・ 相互交通ハブ。中国が計画する 42 のインフラ事業の結節点。江蘇省最大の港として、30 万トン級の船が接岸できる岸壁を整備。昨年コンテナ取扱量は 613 万 TEU。国際貨物列車も 6 ルートが整備済。市内の鉄道延長は 366 キロ、うち 3 分の 2 は高速鉄道。上海まで 3 時間、北京まで 4 時間。毎日 6-7 万人の乗客が利用している。

また、日本の自治体との関係では、堺市、佐賀市と友好関係にあり、川崎市とも関係を強化しているとのことです。また連雲港と日本の経済協力については、(株)サントリーが日本企業として初めて連雲港に進出し、以降、市内には約 250 社の日本企業が立地しているとのことです。

なお、今年は連雲港港が中国政府から重要港湾に指定されてから 40 周年で、これまで化学品、自動車、木材製品などを取引してきましたが、今後も重点分野（デジタル経済、再生可能エネルギー・エネルギーミックス、投資環境の最適化など日系含む外国企業への支援強化）を中心に、より一層の発展を目指すとのことでした。

日本側からは、在上海日本国総領事館の赤松総領事（大使級）から、日頃の同市政府による日本人、日系企業等への支援に深い感謝の意が表されたほか、特にコロナ禍後は、何より人と人との交流を進めていくことが重要で、経済交流、青少年交流など多方面での人の交流強化を進めていきたいとの希望が示されました。また、在留邦人の安全確保が最重要と述べられたうえで、経済交流の活発化には往来に係る規制緩和が重要だとして、コロナ禍前に実施されていた短期訪問者のビザ免除措置復活への期待・要望が伝えられました。また日中の地方政府間の交流については総領事館としても全面的にサポートしていきたい、とのことでした。

市政府の政務、商務、外務トップが同席



【日系企業は、行政と二人三脚で事業を展開】

次に、連雲港市内で事業を展開する日系企業を訪問しました。まず、神奈川県に本社を置く株式会社アマダです。同社連雲港拠点は1994年に中国企業との合弁としてスタート、2009年に独資化しています。現在は市内に2工場を有し（最新の工場は2023年に稼働開始）、金属を切断する切断機の刃（メタルバンドソーブレード、例えばアルミホイールの成型機、冷凍マグロの切断機）を製造しているとのことでした。また同社総経理が、内外の交流に尽くした企業人に与えられる江蘇省人民友好使者として表彰されたとのこと、こうした点含め、地域行政と一体となった事業展開をされているとのことでした。

事業概要を学んだ後、工場内を見学



次に訪問したのは株式会社味の素です。同社連雲港拠点では、焼きそば、揚げ物、キッシュ、スイーツなどを製造しているとのこと、主に北米、EUなどに輸出する製品が多いとのことでした。その意味で、良質な港がある連雲港は、同社の事業展開に貢献していると言えそうです。また、上述のアマダ社同様、

行政と密接に連携しながら事業を展開しているとのことで、行政のサポートを得て複数有していた現地法人を整理統合するなど、効率的な事業展開に理解を示していただいているとのことでした。

食品企業としては、原料が生命線とのことで、中国国内外から仕入れるものの、産地を限定し、残留農薬、土壌、水質、農場技術者の資格検査を行うなど、厳しく管理しているとのことです。また中国国内向け事業として冷凍スイーツ事業を展開しており、近年中国内でもコールド・チェーン（冷蔵・冷凍輸送）標準化の仕組みが立ち上がり、業務がしやすくなったとのことでした。

中国市場の志向を最大限取り込んだスイーツを開発



【陸上交通と歴史のクロスロード：徐州】

次に向かったのは、連雲港から高速鉄道で 1 時間ほどのところにある徐州市です。同市は面積 1,165 km²、人口 1,029 万人で、都市別 GDP は国内 28 位の、中規模の都市です。面談対応いただいた徐州市トップの宋書記によると、同市の魅力は主に以下の通りです。

- ・ 徐州は歴史文化の豊かな都市。蘇州や南京よりも長い歴史をもち、三国志で名高い劉邦の故郷でもある。漢の文化を知りたいければ徐州に行け、と言われるほど。劉邦のライバルである項羽にもゆかりがある。
- ・ 徐州は交通の要衝。1918 年、天津と南京、その後、連雲港と西安を結ぶ幹線路が完成し、それらが徐州で交差している。今日では、市内を毎日 496 本の高速鉄道が行きかっており、186 都市に直通するなど大変便利。徐州空港も国際空港としての役割を果たしている。
- ・ 世界の 61 の都市と友好関係を結んでいる。中央班列（中国～欧州を結ぶ貨物鉄道路）の運行増加率は 70% と急速に拡大。日本とは、青島や連雲港を通じて鉄路・海路で結ばれている。
- ・ 徐州は建設機械の都。その産業規模は国内全体の 4 分の 1 ほどを占めるほど集積している。国内最大手の地元企業、徐工集団は日本の主要企業とも連携しながら、順調に成長を遂げている。

なお、同市は愛知県の半田市とも 1993 年以降、30 年来の付き合いとのことで、書家展や青少年交流も毎年実施しているほか、市内に半田園という半田市をイメージした庭園も設置しているとのことでした。また石川県とは農業技術で連携し、その賜物である富士リンゴは、今や徐州の名物となったそうです。

市政府の主要部署の担当者が出席



【市内日系企業：国内の需要減も、海外に活路】

徐州市では、建設機械関連の日系企業を視察することができました。まず、神戸市に本社のある建設機械部品を製造する阪神機器株式会社です。同社は、大口顧客に納入するショベルカーの部品を市内の工場で製造しているとのことで、また中国外からの発注も多く、顧客から金型を預かったうえで、それをベースにランダムな需要に対応しているとのことでした。中国国内市場における不動産の状況は建設機械などの需要にも影響を及ぼすと考えられますが、中国内のみで完結しないビジネスモデルを構築しているところに、同社の強みがあるのであろうと感じました。

次に訪問したのは、株式会社二川工業製作所（本社：神戸市）です。同社も阪神機器株式会社同様、建設機械部品（燃料タンクなど）を製造する企業で、徐州への進出理由としては、建設機械関連の企業が集中して立地しており、当社もそうした点を重視したとのことでした。また、徐州は陸上物流のハブで、中国内どこでも商品を送るのに便利な立地ということも考慮したとのことです。

徐州には建設機械製造関連企業が集積



【インバウンドの資産に溢れる土地柄】

また、時間は限られましたが、両地域の景観保護地区、歴史施設なども視察することができました。今回の視察で印象的だったのは、両地域とも三国志をはじめとする歴史的な遺産に溢れており、それらがインバウンドの資産として活用可能であると感じたことでした。特に徐州市の兵馬俑は、最も有名な陝西省・西安のものとは比べると小ぶりですが丁寧に発掘が進められており、その価値は発掘の進展とともに上昇していくだろうと思われました。同市内には三国志関連の戦跡も多数あるとのことで、日本人にも人気が高い三国志をPRすることで、観光面での交流を強化することも可能ではないかという印象を持ちました。

徐州市内に残る歴史的な街並みと、ゆかりの深い項羽の像



1つとして同じ形はない



【実際に訪問すれば、必ず新しい発見がある】

今回の訪問で、鉄道と海運の結節点である連雲港市、陸上交通の要衝である徐州市、そしてそれぞれの立地・産業的特色を生かす形で日系企業が進出しているという状況を理解することができました。また、産業・企業間交流とは別の視点、すなわち観光交流などといった側面でも、こうした地方との交流を行う重要性を感じることができました。

それら意味において、やはり日中の人的往来がよりスムーズに行われることが望ましいと思われまます。本稿執筆時点において日本から中国に渡航するにはまだビザが必要で、このことが日本人の中国訪問を躊躇させているのも事実だと思います。視察中、在上海日本国総領事館の赤松総領事もあらゆる機会をとらえてこの点の改善を中国側に要望しておられましたが、こうした地道な努力を続けることで、1日も早いコロナ前の状態の復活を願いたいと思います。

愛知県上海産業情報センターとしても、今回の視察などの機会を活用し、各地域の投資優位性や進出企業との意見交換などを通じた状況の把握に努めるとともに、当該地方政府との関係性を構築し、愛知県企業とのコラボレーション事業の模索など、色々な可能性を追究してまいります。

参考：最近の中国内の主な動き

7月3日 世界知的所有権機関（WIPO）が3日発表した報告書によると、2014-2023年、中国の生成AI（人工知能）特許出願件数は3万8,000件以上で世界一となり、2位の米国の6倍だった。新華社が伝えた。同報告書によると、14-23年の10年間の世界の生成AI関連の特許出願件数は5万4,000件に達し、うち25%以上が昨年に出願したものだった。

7月4日 中国商務省の発表によれば、中国の2024年1～5月のサービス貿易額は前年同期比16%増の3兆219億6,000万元（約67兆円）だったと発表した。伸び幅は1～4月（16.8%）から鈍化した。このうち輸出は11%増の1兆2,195億6,000万元、輸入は19.6%増の1兆8,024億元で、収支は5,828億4,000万元の赤字となった。

7月8日 中国乗用車協会（CPCA）の発表によれば、6月の内燃エンジン（ICE）車の乗用車販売台数が前年同月比で27%減ったと発表した。「新エネルギー車（NEV）」などを含む全体の減少率（6.7%減）をはるかに上回る落ち込みとなり、中国のICE車業況の悪さがはっきりと表れた。中国ICE車市場で力を誇っているのは日系やドイツ系を中心とする外国ブランド車で、これら自動車メーカーは中国事業での正念場を迎えている。

7月10日 中国自動車工業協会（CAAM）の発表によれば、今年1～6月の自動車生産台数は前年同期比4.9%増の1,389万1,000台、販売台数は同6.1%増の1,404万7,000台を記録した。新エネルギー車（NEV）の生産台数は同30.1%増の492万9,000台、販売台数は同32%増の494万4,000台で、市場シェアは35.2%だった。

- 7月15日 中国国家统计局の発表によれば、2024年第2四半期（4～6月）の実質国内総生産（GDP、速報値）成長率は、前年同期比4.7%だったと発表した。成長率は2024年第1四半期（1～3月）の5.3%から0.6ポイント縮小した。消費が力強さを欠いた。一方、製造業の設備投資拡大、外需の回復などが成長率を下支えした。昨年の経済のけん引役は消費だったが、今年はけん引役が投資と外需に代わっている。2024年上半期（1-6月）のGDP成長率は前年同期比5.0%増だった。
- 7月30日 上海市で25日に行われた中国国際デジタルエンターテインメント産業大会（ODEC）で明らかになったところによると、今年上半期（1-6月）には、中国国内のゲーム市場の実際の売上高が前年同期比2.08%増の1,472億6,700万元（1元=約21.2円）で、成長傾向は比較的安定している。ゲームユーザー数は6億7400万人で、再び過去最高を更新した。
- 7月31日 中国国家统计局及び中国物流購買連合会の発表によれば、2024年7月の製造業の景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）は49.4と、前月から0.1ポイント下がり、好不況を判断する節目の50を3カ月連続で下回った。需要不足で新規受注が振るわなかったほか、各地の高温や水害も影響したとのこと。

愛知県上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、上海産業情報センターが、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。